

〈国際金融パネル〉

アジアの金融統合に向けて

日本銀行 高橋 亘

アジア地域においては、国境を超えた企業活動が活発化し、域内貿易の増加などの経済活動の連関が進んでいる。本報告の目的は、こうした経済活動の発展を念頭に、今後のアジアの金融統合の方向を考えることである。

報告を通じて、①金融統合は誰のためにあるのかという基本的視点を今一度踏まえたい。②世界的な金融危機をのりこえるアジア経済の成長力とは何か、③いわゆるグローバル化の下でアジア金融統合の動き、とりわけアジアの金融協力の成果としてとりあげられることの多い債券市場育成の動きをどう評価するか、④公的セクターの役割は何か、といった点について論じていきたい。

またアジアの金融統合は欧州の経験と対比して論じられることが多い。しかし政治・経済統合という大きな枠組みのなかで金融統合・共通通貨を成し遂げつつある欧州と、通貨危機の克服をへて金融統合を指向するアジアのとの間には、より利便性の高い地域市場を目指すという共通は多いものの、アプローチにおいて若干の違いもあるようにも思える。そこで欧州の動きも参考にアジアの金融統合の方向も考えてみたい。

- (1) アジア危機以降の金融統合の変遷
- (2) アジア債券市場育成の評価
- (3) 金融統合に求められるもの
- (4) 欧州の経験から何を学ぶか
- (5) 結びに代えて

なお本報告は報告者の個人的な見解であり、必ずしも所属機関の見解ではないことを予めお断りしておきたい。